

自分達の活動にとって
ふさわしい資金調達法は何!?

「地域の資源をつなげる 情報交流会」

～今旬の4団体に現場からの生の声を聞こう!～

●日時:2013年2月2日(土) 13:00～17:15(受付12:30～)

●会場:名古屋文化短期大学 B館401教室

◆対 象:中部地区のNPO・地縁組織・その他個人の活動家
など、豊かな地域社会づくりに関心のある方

◆参加費:500円(資料代・当日会場にてお支払いください)

◆定 員:100名(先着順)

自身に最適な助成金が
一目でわかるガイドや、
多様な資金調達の位置
づけがわかるマップなど、
最新データを
差し上げます!!

NPO等市民活動団体及び個人の資金調達法には「会費」「寄附」「事業収入」「補助・助成」「委託」の5つがあると言われています。皆さまは資金調達法を選ぶとき、どのような基準で選択していらっしゃいますか? 今回の情報交流会では中部地域で先進的な活躍されている4団体の代表の皆さまから、それぞれの事業と資金調達について最も旬なお話を伺い、それらの事例を参考に新時代のファンドレイズの在り方を模索しつつ、参加者の皆さまの活動に最適な資金調達法について語り合う機会を提供します。



木村 真樹

「コミュニティ・ユース・バンク momo」
代表理事

若者たちによる“お金の地産地消”の推進や、社会責任・貢献志向の企業やコミュニティビジネス、NPOへのハンズオン支援を行っている。わたしたちが暮らすまちの課題の解決策に、みんなで“志金”を持ち寄る仕組みを次世代に遺したいという想いから、愛知県で初めての市民ファンド「あいコミュニティ財団」の設立に向けて、県内を東奔西走中。



平沼 辰雄

「おひさま自然エネルギー株式会社」
代表取締役

名古屋を中心とした中小企業家のグループによる株式会社を設立。住民や企業から出資を募り、その出資金で太陽光パネルを購入。自治体や中小企業の屋根を借り発電し、その収益を出資者の配当や元金返済に充てるソーシャルビジネスを展開する予定。市民の意思あるお金で再生可能な自然エネルギーの普及促進につとめる。



和喜田 恵介

「NPO法人中部リサイクル運動市民の会」
共同代表

1980年10月、使い捨て社会や環境破壊への危機感から、「できるところから始めよう」と有志が集まってスタートさせたのが「中部リサイクル運動市民の会」。市民の生活に浸透したリサイクルにかわり、現在力を入れているのが家庭の不用品をリユースするチャリティショップ事業。現在2店舗だが、さらなる店舗拡大を目指している事業型NPO。



竹内 ゆみ子

「認定NPO法人ソムニード」
専務理事

インドのスラムに住む女性や荒廃が進んだ農村の技術支援など、ソムニードの活動は支援者に対価を期待できない事業。審査の厳しい「認定」取得だが、2年の準備期間を経ていち早く認定NPO団体となったソムニード。認定をとったからといって寄附金は増えないが、営業の切り口としての認定NPOが思わぬ効果をもたらしており、予想外の効果から新たな事業にも取り組んでいる。